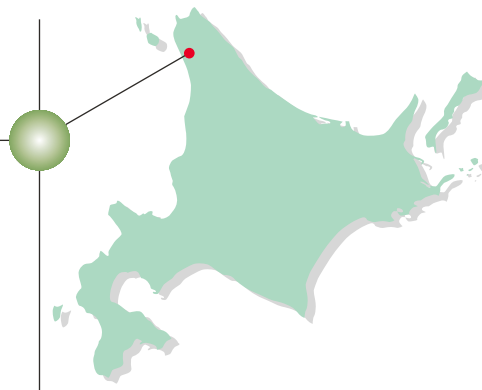


豊 富 町

豊富町
面積：520.67km²
人口：5,147人（平成14年4月1日現在）
町の花、木：エゾカンゾウ（花）、オンコ（木）
町名の由来：資源の豊富なところ
ホームページ：
<http://www.dosanko.co.jp/toyotomi/>
メールアドレス：toyotomi@dosanko.co.jp



豊富町総務課
企画室長

平田 誠

豊富町は、北海道北端の宗谷支庁に属し、北は稚内市、南は幌延町、東は猿払村に隣接し、西は日本海に面し海上20キロに利尻島を望むところで。

気候は、夏涼しく、冬は北西の風が強く乾燥寒冷で、気温も年平均5～6℃と低い地域です。また、降雪は11月中旬～4月中旬まであり、最深積雪は97cmに達します。

町の歴史は、明治36年に梅村庄次郎以下12戸の岐阜団体が兜沼に入植して開拓が始まり、今年で丁度100年を迎えます。

大正の末期より昭和の初期にかけて北海道拓殖計画或いは日曹炭鉱の開始により入植した者、更には戦後食糧増産のため緊急開拓者として入植により人口が増加していきました。宗谷本線音威子府・稚内間が大正15年に開通し、昭和15年9月には、幌延村からの分村により豊富村が誕生し、昭和34年には町制が施行されました。

昭和47年7月には、35年間採掘を続けていた日曹炭鉱が経営不振等を理由に閉山し、これに関連する就業者1,000人に近い人口の流出がありました。

昭和49年には、サロベツ原野や稚咲内原始砂丘林等が「利尻・礼文・サロベツ国立公園」として指定を受け、観光の町としても脚光を浴び、昭和61年には浩宮徳仁親王殿下、平成元年には天皇皇后両陛下が本町をご視察されるという光栄に浴しています。

私たちの町は、「利尻・礼文・サロベツ国立公園」の一角にある23,000ヘクタールに及ぶサロベツ原生花園、効能豊かな泉質を誇る豊富温泉、澄んだ空気の中でのんびり草を食む乳牛の楽園・大規模草地牧場、オートキャンプ場を備えた兜沼公園など四季の変化を感じる自然豊かな酪農と観光のまちで、町内外からの観光客で賑わっています。

また、平成3年に全国初の「自転車健康都市宣

言」を行い、毎年、自然にやさしいイベントとして町民や道内外から多くの参加をいただき「全国自転車まつり」を開催しています。

これからも、恵まれた自然に感謝し、環境や資源を大切に、全ての人が住みよさと豊かさの実感できる「活力と温もりのある自然にやさしいやすらぎの里」豊富町を目指し、まちづくりに積極的に取り組んでいきたいと思っています。

ボランティア・サポートプログラムの取り組み

●背景と経過

水緑豊かな自然と調和したまちづくりを推進するために、平成9年3月に、新まちづくり計画の緑の部門計画として策定された「豊富町まちなかの杜づくりネットワーク構想」で具体的な施策の提案の一つに「国道・道道花いっぱい運動」がありました。

豊富町が、平成元年から実施している「まちづくり海外研修」で、花が生活の一部になり、町や村のいたるところに花があふれている景観に感動した研修参加者達から「自分たちのまちでもできること」を「自分たちの力でやりたい」意向が示され、平成10年5月に「花²ネットワーク」が組織され活動が開始されました。

当初は、行政も財政的な支援をしておりましたが、その後は「自らが参加している」という意識と高揚を継続するために、会の主旨に賛同する個人や事業所が、自ら会費を納め、ボランティアで街中を花一杯にする活動を行っています。

●活動の概要

花²ネットワークは、個人会員200名（年会費1,000円）、事業所36箇所（年会費2,000円）で構成

され、市街地を縦断する町のメインストリートである国道40号の歩道両脇に木製の枠付きプランター500個を設置し、また、国道沿いの植樹（町木のオンコ）柵の周りにも花の苗を植えています。



フラワーポットの準備をする参加者のみなさん

設置後のプランターなど維持管理は、会員になっている商店や個人の方々をお願いして、水や肥料をやってもらっています。

さらに、平成11年度からは、毎年継続してもらうことを条件に、個人住宅にもプランターを設置してもらい花を飾ってもらっています。

豊富町の町花が「エゾカンゾウ」、町木が、「オンコ」であることから、それらに配慮した配色を考慮して花を植えています。

また、オンコは、冬期間の事を考慮し移動できるように柵に植えています。



道路を彩るフラワーポット

平成12年度からは、北海道開発局稚内建設部・豊富町・花²ネットワークの3者でボランティア・サポートプログラムに取り組み、植栽の維持管理、歩道の清掃活動を行っています。

関係者の協力をいただきながら、花づくり技術の向上と情報交換の場として、花づくり講演会を開催したり、町民文化祭の会場には、花で飾られた各家庭や職場の様子を写真撮影し展示しています。

●効果と成果

まちが華やかに彩られ、住民は勿論、訪れる観光客などに安らぎや癒しを与え、町のイメージアップにもつながっているようです。

設置したプランター以外にも、個人が工夫を凝らしたプランターなども一緒に並べられたり、壁に飾られたり、花が表に出てくるようになりました。

プランターや鉢に水をやる住民の姿が微笑ましく、花を育てることが住民の相互交流の場となっています。



花の手入れを行う花²ネットワークの会員

また、通学する児童生徒たちにもなごやかな環境を与え、花の前に立ち止まり談笑している光景を見ることができます。

●今後の展開

現在、花の苗は一部を他の町から購入していますが、今後は全ての花を地元で調達できるように考えています。

そのために、昨年から、町内の身障者施設である共同作業所（サロベツ・マイハート）と手を組み、豊富温泉の廃湯を活用したビニールハウスによる苗の栽培にも取り組んでいます。

また、豊富町は先に記述したように酪農専業地域でもあり、家畜糞尿処理問題に見られるような農村環境整備が課題になっていますので、花²ネットワークの活動の輪をさらに広げ、環境や資源を大切にしながら「活力と温もりのある自然にやさしいやすらぎの里」づくりのため町全体に花一杯運動を展開していきたいと思っています。

●実施団体からのメッセージ

町が花で華やかに彩られ、訪れる観光客等にやすらぎを与え、町のイメージアップにつながります。

花を育てることが住民の相互交流の場となり、「自分たちの町は自分たちで守る」意識、「やればできる」意識の高揚が図れています。